

## 第4章 教育機関

1	市川市生涯学習センター（メディアパーク市川）	54
2	市川市教育センター	56
3	市川市立図書館	59
4	市川市公民館（社会教育課）	64
5	市川考古博物館	67
6	市川歴史博物館	69
7	市川自然博物館	71
8	市川市少年自然の家	73

**1. 市川市生涯学習センター  
(メディアパーク市川)**

〒272-0015 市川市鬼高1-1-4 (中央図書館)  
TEL 047-320-3346(代表) FAX 047-320-3351



**特 色**

市川市生涯学習センター（メディアパーク市川）は、市制施行60周年に合わせ平成6年11月、市民の生涯学習を支援する拠点として開館した。

本センターは、視聴覚資料・点字図書・大活字本など80万点を備えた「中央図書館」、グリーンスタジオ・ベルホール・資料室等を備えた文学と映像を活動の基盤とする「文学ミュージアム」、教育相談や研修が行われる「教育センター」、子ども達が遊びを通して感性や創造力を育てていく「中央こども館」、青少年の健全育成のための補導活動や少年相談業務を行う「少年センター」がある。

「読む」「見る」「聞く」「学ぶ」「遊ぶ」が一箇所のできる、新しいタイプの生涯学習施設である。

**沿 革**

- 昭和63年4月 中央図書館等複合施設建設検討会設置
- 63年7月 ワーキンググループ設置  
(基本計画案検討)
- 63年10月 中央図書館等生涯教育センター建設準備委員会設置  
「仮称メディアパーク市川建設基本計画」策定
- 63年11月 用地取得

- 平成元年7月 「仮称メディアパーク市川建築計画書」策定
- 元年10月 競技設計実施
- 2年7月 基本設計完了
- 3年3月 実施設計完了
- 3年12月 着工
- 6年6月 竣工
- 6年11月 メディアパーク市川開館

**利 用**

○開館時間

- ・中央図書館
  - 火曜日～金曜日 10:00～19:30
  - 土・日曜日・祝日 10:00～18:00
- ・こどもとしょかん
  - 火曜日～金曜日 10:00～18:00
  - 土・日曜日・祝日 10:00～17:00
- ・中央こども館
  - 火曜日～金曜日 10:00～18:00
  - 土・日曜日・祝日 10:00～17:00
- ・文学ミュージアム
  - 火曜日～金曜日 10:00～19:30
  - 土・日曜日・祝日 10:00～18:00
- ・文学ミュージアム資料室
  - 火～日曜日・祝日 10:00～17:00
- ・教育センター
  - 研修グループ：
    - 月曜日～金曜日 10:00～17:00
  - 相談グループ：
    - 火曜日～土曜日 9:00～17:00
- ・少年センター
  - 電話相談：月曜日～金曜日 9:00～17:00  
(水曜日のみ) 9:00～19:00
  - 面接相談：月曜日～金曜日 9:00～17:00
  - eメール相談：24時間

○休館日

- ・月曜日
- ・年末年始 (12/28 ～ 1/4)
- ・館内整理日 (土・日を除いた月末)

## 施設

### 1 概要

敷地面積 11,012㎡ 構造 鉄骨鉄筋コンクリート造(地下1階、地上3階 一部4階建)  
 建築面積 6,164㎡ 延床面積 19,647.79㎡ 総工費 125億 1,600万円

### 2 施設案内

1階	中央図書館	5,943㎡	・開架フロアを一つにまとめ、小説・参考図書類を配架する ・収蔵能力100万冊 ・他に新聞、雑誌、ビデオ、CD、DVDを置く
	こどもとしょかん	468㎡	・児童図書及び児童文学研究に関する本をそろえる ・おはなし室、くつろぎ広場（じゅうたんコーナー）
	中央こども館	1,655㎡	・遊びを通してこども達の健全育成を図る ・乳幼児ルーム、プレイルーム、集会室
2階	文学ミュージアム	2,770㎡	・最大260名収容のグリーンスタジオ ・46人収容のベルホール ・文学、映像に関する企画展の開催・映像編集設備・文学研修室
3階	教育センター	2,198㎡	・教育関係者の研修会の実施、教育に関する研究 ・来所及び電話による教育相談や、不登校児童・生徒の教室の運営
	文学ミュージアム資料室	200㎡	・市川ゆかりの文学に関する情報、資料室
	少年センター	35㎡	・計画補導、地区補導を通して青少年の非行防止と健全育成を図る ・少年および保護者等からの相談業務
4階 地下1階 その他	機械室 駐車場 共有部分	6,379㎡	・一般駐車場95台 ・音楽スタジオ、集会室

### 3 整備機能

#### 地下1階

- ・音楽スタジオ  
（1室はドラムセット・デジタルピアノを設置、5～6人演奏練習に利用可）

#### 1階 中央図書館

- ・ポピュラーライブラリー
- ・レファレンスライブラリー
- ・レファレンスカウンター  
（調べものの相談対応）
- ・ブラウジングコーナー  
（新聞、雑誌の軽読書に利用）
- ・予約受取コーナー
- ・AVコーナー
- ・調べもの用インターネットブース
- ・持ち込みPC利用ブース
- ・障害者サービス室
- ・対面朗読室
- ・シニアルーム（研究個室）
- ・ビジネスルーム  
（パソコン・電卓持込利用可）
- ・ヤングアダルトルーム
- ・資料検索コーナー
- ・ICゲート（貸出確認システム）設置

#### 1階 こどもとしょかん

- ・おはなし室

- ・くつろぎ広場（じゅうたんコーナー）
- 1階 中央こども館
- ・アスレティック・フォーリー
  - ・光のトンネル ・卓球
  - ・バスケットコート・中高生専用ルーム
- 中2・3階
- ・閉架書庫（収蔵能力80万冊）
- 2階 文学ミュージアム
- ・グリーンスタジオ  
最大260人収容、可動床によりさまざまな催しができる多目的スタジオ
  - ・ベルホール
  - ・通常展示フロア
  - ・企画展示室
  - ・映像メディア編集室
  - ・文学研修室
  - ・アナウンスブース
- 3階 教育センター
- ・研修室4室 ・和室研修室
  - ・コンピュータ研修室
  - ・教育相談室
  - ・和室相談室 ・プレイルーム
  - ・ふれんどルーム市川
- 3階 文学ミュージアム資料室
- 3階 少年センター

**2. 市川市教育センター**

〒272-0015 市川市鬼高1-1-4  
 TEL 047-320-3335(研修担当事務室)  
 047-320-3336(相談担当事務室)  
 047-320-3345(少年センター事務室)  
 教育センター行徳相談室  
 〒272-0192 末広1-1-31  
 TEL 047-318-3223

**特色**

市川市教育センターは、昭和36年に「市川市教育研究所」として設置された。昭和58年には「市川市教育センター」に改称し、機能を整備し拡充してきた。

平成6年11月に、市川市生涯学習センターの設置と同時に移転し、生涯学習の基礎を担う一端に位置づけられた。

主に市内小・中・義務教育学校、特別支援学校の教職員の研修、学校の情報化に関すること、子どもや保護者からの教育相談などを行っている。教育相談の内容は、子育てに関することから不登校など学校生活に関することまで幅広く、教育に関する経験と見識を併せ持つ相談員や臨床心理士が常駐している。

**沿革**

昭和36年4月 市川市役所内に市川市教育研究所を置く  
 昭和37年1月 教育相談事業開始  
 昭和38年3月 小学3・4年生用副読本「わたしたちの市川」初版発行  
 昭和48年4月 教職員等研修事業開始  
 昭和49年4月 就学指導委員会条例施行  
 昭和54年4月 教育実践記録論文「いぶき」第1回募集  
 昭和54年6月 「教育いちかわ」1号発行  
 昭和58年12月 南八幡5-20-3に移転、「市川市教育センター」と改称  
 平成元年 公共図書館と学校とを結ぶネットワーク事業開始  
 平成6年11月 市川市鬼高1-1-4、市川市生涯学習センター3Fに移転  
 平成6年 適応指導教室開級  
 平成8年 文部省指定「学校図書館情

報化・活性化推進モデル地域事業」～10年  
 平成11年 文部省・郵政省指定「マルチメディア活用学校間連携推進事業」  
 平成13年 文部科学省指定「次世代ITを活用した未来型教育研究開発事業」  
 平成13年 文部科学省指定「学校図書館資源共有型モデル地域事業」～15年  
 平成15年 文部科学省指定「不登校児童生徒の適応指導総合調査研究委託事業」～14年  
 平成15年 文部科学省指定「スクーリング・サポート・ネットワーク整備事業」  
 平成16年 文部科学省指定「学校図書館資源共有ネットワーク推進事業」～18年  
 平成18年 文部科学省指定「学校図書館支援センター推進事業」～20年  
 平成19年 きらきら体験留学事業  
 平成21年 文部科学省委託「学校図書館の活性化推進総合事業」  
 平成22年 文部科学省委託「学校図書館の有効な活用方法に関する調査研究」～23年  
 平成22年 「ほっとホッと訪問相談」指導課より移管  
 平成25年 文部科学省委託「学校図書館担当職員の効果的な活用方策と求められる資質・能力に関する調査研究」～26年

平成25年	校内LANシステム、校務支援システム、ICT機器等の導入
平成27年	教育支援委員会条例施行 文部科学省委託「学校司書の資格・養成の在り方や資質能力の向上等に関する調査研究」～29年
平成30年	文部科学省委託「学校図書館ガイドラインを踏まえた学校図書館利活用に係る調査研究」～令和元年
令和元年5月 11月	教育センター行徳相談室開室 校内LANシステム機器入れ替え
令和2年	文部科学省委託「学校図書館の振興に向けた調査研究」 適応指導教室週5日開室
令和3年	文部科学省委託「学校図書館の活性化に向けた調査研究」 GIGAスクール構想 GIGAネットワーク、無線LAN、タブレット端末の導入

## 施設

市川市生涯学習センター 3階 2,233㎡  
(通称 メディアパーク市川)

## 事業

### 1 学校情報化研究事業

情報活用能力育成のために、文部科学省より示された「教育のICT化に向けた環境整備5か年計画」等を参考に、学校のICT環境整備を進めていく。また、学習の基盤となる資質能力としての情報活用能力を育てるために必要な研修の機会等を実施する。

### 2 学校図書館支援事業

図書を相互利用する物流システム、図書の管理等を効率的に行う図書管理システムを活用し、学校図書館の支援を目的に学校図書館の機能の充実・強化を図る。

### 3 教職員等研修事業

市川市の教職員の資質・力量の向上を図るため、市川市、千葉県、国の教育施策をふまえ、教育の今日的課題や教職員のニーズに応じた研修を行う。

- (1) 層別研修
- (2) 職務別研修
- (3) 希望研修

### 4 社会科副読本等製作事業

小学校における郷土に関する学習指導の在り方を研究するとともに、副読本「わたしたちの市川」(小学校3・4年用)及び指導解説資料等の作成をする。

### 5 教育情報事業

(1) 「教育いちかわ」による教育情報配信  
市川市教育委員会の施策や新しい教育情報等を市民・保護者・学校関係者にHP、SNSを通じて提供する。

- (2) 教育実践記録論文集「いぶき」

教職員の日常の教育活動をまとめた論文を募集し、論文集を発行する。優れた実践を紹介し、市川教育の向上に努める。

- (3) 教科書センター

各種教科書を常設し、学習指導のための資料提供や教科内容の研究等を行うことができる。また、保護者、市民にも利用できるようにすることで、教科書や教科への理解を深める。

### 6 教育情報収集・提供事業

学校要覧、教育課程編成資料、研究紀要を収集し、各学校へ情報を提供する。

### 7 教育支援委員会運営事業

(市川市教育支援委員会)

特別な支援を必要とする幼児、児童生徒の適正な就園・就学及び転学に関し教育委員会の諮問に応じ調査審議するとともに必要に応じ建議する。

## 8 教育相談事業

### (1) 教育相談

市内在住の3歳以上の幼児・小学生・中学生とその保護者を対象に、子育てをしていく中で生じるさまざまな悩みに関して、専門的知識を持つ教育相談員等が保護者との面接相談やカウンセリングを行ったり、子どもとのプレイセラピー(遊戯療法)を実施したりすることで悩みの軽減や解消を図る。

### (2) ほっとホッと訪問相談

不登校をはじめとする子育て全般の悩みに対して、経験豊かな相談員が電話相談や訪問相談等を行うことで、児童生徒及び保護者の心の安定を図る。

## 9 教育支援センター運営事業

(サポートルームふれんど市川)

心理的な要因等で不登校の状態になっている児童生徒に対して、小集団での活動を通じて自己肯定感を高め、集団生活への適応力を育む等、個々の児童生徒の状況に応じた必要な支援を行う。

## 10 補導員活動事業

非行の早期発見・未然防止のため、市が委嘱した160名の少年補導員と市川・行徳両警察署の協力を得て、実施計画に基づいた市内全域の補導活動を実施する。

## 11 少年相談事業

複雑化、深刻化する傾向にある相談者の悩みやニーズに対応できるよう、電話や電子メールから、面接相談や他の専門機関などへの適切な受け渡しに努め、相談効果を高める。

## 12 社会浄化啓発活動事業

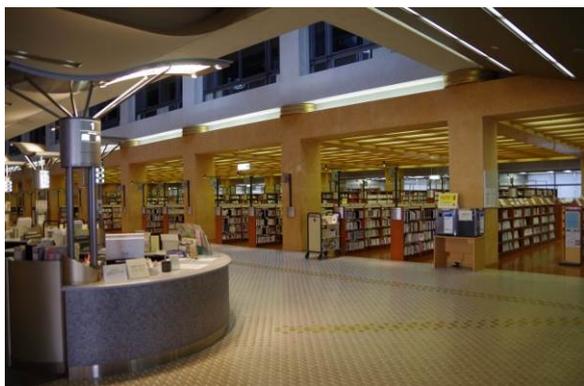
少年非行及び犯罪の発生予防を目的として、少年(青少年)に有害な社会環境の浄化・改善活動、少年の非行化防止活動、ネットトラブル防止出張授業など少年の健全育成のために必要な施策を行う。

## 13 少年センター運営協議会事業

教育委員会の諮問に応じて、少年センターの運営についての方向性等を審議する少年センター運営協議会を開催する。

### 3. 市川市立図書館

〒272-0015 市川市鬼高 1-1-4 (中央図書館)  
TEL 047-320-3346 FAX 047-320-3351



#### 特色

図書館は、社会を取り巻くさまざまな課題や個人の生き方について、市民一人ひとりが興味と関心に従って自由に学び、必要な知識を得て考え、意見を作り上げるための資料・情報と学習の場を提供する生涯学習機関である。

本市の図書館の今後の目指すべき方向性については、平成26年度に「市川市立図書館運営基本計画」を策定しており、その評価を実施し公表している。本計画では、三つの柱の下に、7つの「施策の方向」を置き、それぞれに具体的な施策を位置付けている。

- 1 情報拠点として市民の学びを支える図書館
  - (1) さまざまな市民の学習要求に応えられる、蔵書の収集と維持
  - (2) 図書館機能を活用した、生涯学習機会の提供と充実
  - (3) 関連機関とのネットワークの充実と、質の高いサービスの提供
- 2 子どもの成長をサポートする図書館
  - (1) 発達に応じた豊かな読書のための環境整備
  - (2) 公共図書館と学校等との連携の強化
- 3 地域の文化を育み、豊かなまちづくりを支える図書館
  - (1) 市川市の歴史・文化の保存と継承
  - (2) 行政の情報拠点としての役割

#### 沿革

昭和		
25年	9月	創立開館 市川小学校に併設（2教室）
32年	5月	葛飾八幡宮境内に移転して 独立館として開館
37年	5月	夜間開館実施
39年	3月	図書館設置条例の制定
	6月	徳願寺境内に行徳分館開館
43年	5月	八幡本館隣りに新館開館
50年	9月	移動図書館「みどり号」運行
54年	2月	信篤図書館開館、行徳分館を 行徳図書館に改称
55年	4月	行徳図書館、移動図書館を本 行徳公民館図書室に移転
56年	10月	行徳図書館、行徳支所4・5 階に移転して開館
58年	10月	南行徳図書館開館
60年	11月	電算システムを導入し、市内 5館をオンラインで結び、シ ステムによる貸出開始
62年	10月	平田図書室開室
平成		
元年	4月	行徳図書館、行徳支所隣に新 館として開館
6年	11月	市川市中央図書館開館
12年	10月	蔵書公開を開始
14年	11月	ウェブからの所蔵予約開始
15年	3月	自動車図書館車を圧縮天然 ガス（CNG）車に更新
17年	4月	「子どもの読書活動優秀実 践図書館」として文部科学大 臣表彰を受ける
18年	10月	宅配サービス開始
21年	4月	指定管理者制度を導入し、市 川駅南口図書館開館
23年	4月	中期計画を策定
26年	11月	中央図書館開館20周年記念 行事を開催
27年	3月	運営基本計画を策定
28年	4月	乳幼児向け利用券発行
	7月	行徳図書館にIC機器導入
	12月	大野公民館図書室蔵書管理 のバーコード化

31年 令和 元年	3月	西部公民館図書室蔵書管理のバーコード化	10月	自動車図書館ステーションを7ヶ所増設し、25ヶ所に拡大
	11月	中央図書館・こどもとしょかんをIC化、自動貸出機・自動返却機・予約受取確認機を設置 行徳図書館に予約受取確認機を設置 中央図書館・行徳図書館に予約受取コーナーを新設	5年	3月 市民提案型図書館推し活企画を募集 子どもの読書活動推進計画第二次計画策定 4月 公式X運用開始
3年	3月	稲越市民図書室閉室		
	10月	図書館ウェブサイト全面リニューアル		
4年	2月	CNG（圧縮天然ガス）タンクの使用期限終了につき自動車図書館車を廃車		
	5月	新・自動車図書館車の運行開始		

## 施設

図書館名	中央	平田	行徳	信篤	南行徳	市川駅南口
蔵書冊数(冊)	779,510	40,934	157,068	51,375	43,241	83,976
雑誌(点)	46,876	818	6,715	1,265	1,071	1,006
CD(点)	11,665	—	7,355	—	—	—
ビデオ(点)	322	—	7	—	—	—
DVD(点)	2,037	—	502	—	—	982
開館時間	火曜日～金曜日 10:00～19:30 土・日曜日・祝 10:00～18:00	火曜日～日曜日 9:30～17:00	火曜日～金曜日 10:00～19:30 土・日曜日・祝 10:00～17:00	火曜日～日曜日 9:30～17:00	火曜日～日曜日 9:30～17:00	火曜日～金曜日 9:30～21:00 土・日曜日・祝 9:30～18:00
閉館日	毎週月曜日及び土・日曜日にかからない月末日・国民の祝日 年末・年始及び蔵書点検期間 ※ 中央・市川駅南口・行徳のみ祝日開館					
閲覧席(席)	368	17	168	36	13	61
駐車場(台)	(共有)95	—	(共有)69	(共有)20	—	—
交通手段(最寄駅)	京成鬼越駅より 徒歩13分 JR本八幡駅下 総中山駅より徒 歩15分	JR本八幡駅より 徒歩10分 京成菅野駅より 徒歩8分	東西線行徳駅よ り徒歩5分	東西線原木中山 駅より徒歩2分	東西線南行徳駅 より徒歩15 分	JR市川駅より 徒歩2分

\* 1 Web-OPAC 等を含む

\* 2 外部データベース閲覧3台含む

## 事業

### 1 資料の提供

市内に5館1室の施設を配置し、市川市在住・在勤・在学の者に対して、図書・雑誌・新聞・視聴覚資料等多様な資料の提供を行う。各館をオンライン化し、できるだけ均質なサービスの提供に努めるとともに男女共同参画センター情報資料室等の類縁機関との連携や市内各所への返却ポスト15箇所の配置により、利便性の向上に努めている。



### 2 資料収集

「市川市立図書館の蔵書の構築に関する指針」に基づき「市川市図書館分類別収集基準」、各年度の「資料収集計画」という体系のもとで資料を収集する。選書にあたっては、中央図書館で毎週選書に関する会議を開催し、全館分の最終的な確認を行い、市川市全体で効果的な図書購入をしている。また、新刊購入だけでなく、既刊図書の買い替えや補充、復刊図書の購入などにも留意し、蔵書の適正な維持に配慮している。

#### (1) 地域行政資料

郷土の歴史を後世に伝えるため、市川市に関する資料を中心に、千葉県内の郷土に関する資料を積極的に収集・提供する。また、市川市民の著作の収集に努める。

#### (2) 視聴覚資料

CD・DVD等図書以外の多様な媒体を提供できるよう、幅広い資料収集と保存を行う。

#### (3) 逐次刊行物資料

最新の情報を得られる速報性を踏まえ、市民の多様な興味・関心に留意し逐次刊行物（新聞・雑誌）の収集・整理・保存を行う。

### 3 リクエストサービス

#### (1) リクエストサービス

利用者の求める図書が、図書館にない場合、貸出資料の予約や相互貸借、購入により提供するサービスである。

#### (2) 国・県・市町村図書館との相互協力

リクエストされた資料が、市川市内の図書館に所蔵が確認できない場合、国立国会図書館・県立図書館及び他の市町村図書館等から、資料を取り寄せて提供するサービスである。

令和5年度は、他の自治体等への貸出冊数は4,166冊、借用冊数は6,176冊となった。

### 4 レファレンスサービス

探している資料が見つからない、知りたい「人」や「事柄」についてどのような資料を調べればよいのかわからないなど、利用者の調査・相談の手助けをする。寄せられた質問とこれに対する回答の事例はデータベース化して蓄積し、図書館のウェブサイト上で公開するとともに国立国会図書館のレファレンス協同データベースにも提供している。

令和5年度の実績は42,793件となっている。

### 5 児童・青少年サービス

#### (1) 児童サービス

令和5年度より施行された「市川市子どもの読書活動推進計画」の第二次計画に基づき、子どもの発達に応じて豊かな読書体験ができるような児童書の選定・収集に務めた。あわせて、館内の展示、ブックリスト、パスファインダーの作成、イベントの実施等、行政各部門と連携して子どもの読書活動を推進している。また、子どもをとりまく大人に対してもサービスを行う。

#### (2) ヤングアダルトサービス

中学生・高校生を中心とした世代を、Young Adult（若い大人）としてとらえ、児童書・一般書の枠にとらわれずに中学生・高校生向けの資料を集めたYoung Adultコーナーを中央・行徳・信篤に、中学生コーナーを南行徳図書館に設置。中央図書館ではグループで調べ学習等の活動ができるYoung Adult Roomがあり、掲示板を置き、情報交換の場としても利用している。

### (3) 学校図書館支援センター事業

学校での「調べ学習」や「読書」を活発に展開させ児童・生徒の「自ら学ぶ力」を養育するために、公共図書館と学校図書館が連携し、児童の「調べ学習」や「読書」を支援している。図書館で学校図書館支援専用資料として約1万900冊を中央図書館で管理し、通常の図書館資料と併せて提供している。

令和5年度、学校からの依頼件数は435件、3,905冊の貸出があり、その他に学級文庫用に2,240冊を提供した。

## 6 特定対象別のサービス

### (1) 障がい者サービス

心身等、図書館を利用する上で何らかの障がいがある方に、それぞれの状況に応じ、図書館を利用しやすいように配慮したサービスを提供する。

一般の図書の形態での読書が困難な方には、点字図書、大活字図書、CDブック、DAISY図書等を用意し、また、来館の困難な障がいがある方には、郵送サービスを行っている。

### (2) 外国人利用者へのサービス

国際化社会に対応した多文化サービスの一つとして、市川市に居住する外国人に対して、日本ででの生活・学習・娯楽等に役立つ図書や行政機関による外国人向けの資料を重点的に収集し提供している。また、外国人利用者向けの図書館利用案内（英語版・中国語版・韓国語版）を用意している。

令和5年度の主な言語別蔵書冊数は、英語7,295冊、中国語3,964冊、韓国語1,662冊、その他の言語1,667冊となっている。

## 7 自動車図書館サービス

図書館だけでは補いきれない地域の人達や身体に障がいのある方、高齢者等、図書館を利用しにくい市民のために25箇所のステーションに運行している。

なお、令和4年度に車両の更新を行った。

令和5年度末の蔵書冊数は17,207冊、延べ利用者数は4,619人、貸出点数は、22,445点となっている。

## 8 公民館図書室

市内15の公民館のうち、7つの公民館（西部・東部・曾谷・大野・市川・市川駅南・本行徳）に設置されている。図書館が設置されていない市北部地域の図書館サービスを補

完する拠点として、大野と西部の2室については、ICによる蔵書管理とし、図書館システムのデータベースを一元化している。

## 9 市民図書室

3つの小学校（塩焼・福栄・大柏）に、学校図書室とは別に設置されている。

当初、コミュニティ・スクールの一環としてはじまり、現在も、地域ボランティアが主体となり、読書活動を推進する目的で、絵本の読み聞かせ会や人形劇など、地域に根ざした活動を行っている。

平成12年10月より、オンラインの図書館PCを設置して、予約図書の貸出、返却を実施。

## 10 市内大学図書館との連携事業

市と各大学の包括協定の内容に含まれており、市民の専門的・学術的な資料要求に応えるために市内の大学図書館と相互利用等を提携している。

### (1) 千葉商科大学付属図書館

市川市立図書館の18歳以上の登録利用者、紹介状を発行することで、大学側が図書館の年度内利用を認めている。

令和5年度は、新型コロナウイルスの感染防止のため、学外利用者は大学に入構できないことから、紹介状発行を休止している。

令和元年度の紹介状発行件数は142件。

### (2) 和洋女子大学図書館

市立図書館に所蔵がない図書を対象に、和洋女子大学で所蔵する専門的な図書（雑誌・貴重書等を除く）を、市内の図書館に取り寄せて館内閲覧することができる。

令和5年度の借用件数は0件、市川市立図書館からの貸出件数0件。

## 11 返却ポストの設置

返却の利便性向上のために市内12ヶ所（市川市役所本庁舎・情報プラザ・市川公民館・南行徳市民センター・歴史博物館・大野公民館・塩浜市民体育館・千葉商科大学付属図書館・イオン市川妙典店・中山窓口連絡所・ベルクス市川堀之内店・菅野公民館）の図書館以外の施設に、図書と雑誌が返却できるポストを設置。更に令和5年度新たに西部公民館と柏井公民館に返却ポストを設置し、現在は市内14ヶ所になっている。

令和5年度の実績は、約21万冊の返却があった。



図書返却ポスト

## 12 リサイクルブック市

図書館の不用図書（除籍資料・寄贈資料のうち、すでに図書館で所蔵しているために受入しないと決定した資料）を有効利用するため市民に無償で提供する。

「市川図書館友の会」の協力のもと生涯学習センター2階のグリーンスタジオを使用して実施している。

令和5年度は読書環境の整備を目的に、私立保育園等の子育て支援施設を優先的に招待した。

**4. 市川市公民館（社会教育課）** 〒272-0023 市川市南八幡 2-20-2 第2庁舎4階  
TEL 047-320-3343 FAX 047-320-3344

**特 色**

**1 公民館運営の基本的な考え方**

市内に15公民館を設置。地域住民の最も身近な学習拠点として、ニーズに応じた様々な学習機会や情報の提供に努めるとともに、各種団体の活動や学習成果の発表等を通じて、地域住民が集い交流できる施設運営を行う。

**2 具体的な目標**

- (1) 施設整備を行い、安全で快適に利用できる施設に努める。
- (2) あらゆる世代が参加しやすい主催講座の企画・実施に努める。
- (3) 生涯学習に関する情報の提供に努める。
- (4) サークルの学習成果の発表の場の提供に努める。

**3 公民館講座情報紙（ミーティアムガイド）の発行**

公民館主催講座の情報紙として、9月と3月の年2回発行し、講座内容の紹介および受講生の募集をしている。

新聞折込配布、公共施設・駅スタンド配布、タブロイド版、2色刷り。

**利 用**

- 1 開館時間 午前9時～午後9時
- 2 休館日 毎月の最終月曜日、祝日  
(祝日が日曜日の場合は振替休日の日)、年末年始(12月29日～1月3日)



菅野公民館（平成23年4月開館）

**沿 革**

- 昭和27年5月 市川市公民館が開館（現在の中央公民館）
- 昭和49年11月 西部公民館が開館  
市川市公民館を中央公民館に改称
- 昭和53年9月 行徳公民館が開館
- 昭和53年10月 鬼高公民館が開館
- 昭和54年4月 東部公民館が開館
- 昭和55年3月 柏井公民館が開館
- 昭和55年4月 本行徳公民館が開館
- 昭和56年5月 市川駅南公民館が開館
- 昭和56年9月 大野公民館が開館
- 昭和57年4月 信篤公民館が開館
- 昭和58年5月 曾谷公民館が開館
- 昭和62年5月 若宮公民館が開館
- 平成元年4月 「公民館だより」発行  
(翌年「カルチャーガイド」に改称)
- 平成元年5月 幸公民館が開館
- 平成2年5月 南行徳公民館が開館
- 平成3年5月 市川公民館が開館
- 平成7年10月 一部公民館にて月曜開館の試行開始
- 平成10年9月 公募により公民館の愛称を「ミーティアム」に決定
- 平成11年4月 公民館組織改正  
(地域別に4ブロック制に)
- 平成12年4月 公民館使用料の単価を、午前・午後・夜間の3区分から、1時間単位に変更
- 平成12年5月 インターネットによる公民館予約システム運用開始
- 平成13年3月 「ミーティアムガイド」(「カルチャーガイド」から改称)を発行
- 平成13年4月 公民館組織改正  
(公民館センターの設置)
- 平成14年4月 行徳公民館に新館を増設
- 平成16年6月 中央公民館菅野分館が開館
- 平成17年4月 全館で月曜開館の実施
- 平成18年4月 夜間を管理委託から直営に
- 平成23年4月 菅野公民館が開館
- 平成25年4月 公民館組織改正  
(公民館センターから社会教育課に変更)

- 平成27年10月 公民館使用料に、市民等以外の料金を新設
- 平成28年4月 施設使用料統一減免基準施行開始
- 平成30年4月 一部のレクリエーションホール等で面積2分の1利用のサービス導入
- 令和2年7月 新たな学習機会の提供として公民館オンライン講座（動画配信）を開始
- 令和3年11月 中央公民館が閉館

## 令和5年度 公民館利用者数及び主催講座実施状況

公民館名	総利用者数 (人)	主催講座 講座数 ※	令和5年度開催講座の例（オンライン講座を除く）
鬼高	17,027	15 (0)	シニアのためのスマホ初心者講座 多肉植物のミニテラリウム作り
信篤	54,513	12 (0)	江戸の怪奇小説を楽しもう ポッチャで気軽にスポーツを楽しもう
東部	60,302	15 (0)	親子で「わらべうた」を楽しもう！ 防災力アップ！体験ツアーで対策強化！
柏井	13,900	13 (0)	学校で陶器作りをしよう オリエンタルヨガでリフレッシュ
大野	64,858	15 (0)	親子でシェフに教わるお菓子作り 日本画の巨匠 横山大観
若宮	14,612	13 (0)	若宮新春邦楽コンサート 子ども未来講座～未来に生きる力をつけよう～
市川	70,672	16 (0)	キッチンからハッピーになれる整理術 走らないサッカーを体験しよう！
西部	61,044	10 (0)	子どもの本の不思議 角野栄子と児童書の世界 聴こう歌おう青春のフォークソング
市川駅南	36,167	13 (0)	キッズのためのヒップホップダンス ガーデニング入門～寄せ植えまで
曾谷	90,567	17 (0)	歴史をたどる「いちかわ散歩」 はじめての色鉛筆画
行徳	84,507	15 (0)	学んでみませんか？キャッシュレス ゆったり散歩でウォーキングを学ぼう
本行徳	15,169	16 (0)	身近な緑を観察しよう 小学生書初め教室
幸	24,166	12 (1)	親子で楽しくフリスビー体験をしよう！ いきいき健康づくりⅡ
南行徳	59,926	13 (0)	ドローンに関する知識や資格習得への道 雨季に備える養生薬膳
菅野	39,384	14 (0)	要介護予備軍返上 棒びくすで体幹強化 新NISA：インフレ対策の重要性
合計	706,814	209 (1)	

※（ ）内は、うちオンライン講座の件数

## 5. 市川考古博物館

〒272-0837 市川市堀之内2-26-1  
TEL 047-373-2202 FAX 047-373-2205



▲博物館全景



●博物館案内図

### 特色

市川市は、原始・古代の遺跡が多く、しかも堀之内貝塚・曾谷貝塚・姥山貝塚・下総国分僧寺跡・下総国分尼寺跡など、国の史跡に指定されている遺跡を含んでいる。これらの遺跡から出土した考古資料によって、原始・古代の市川を中心とした地域の歴史の歩みを体系的に理解し、学べる考古専門館である。

生涯学習の時代の一翼を担う多彩な講座、体験学習、見学会などの実施によって、市川の歴史に対する認識を高め、郷土に対する愛着を深めてもらうよう努めている。

### 沿革

- 昭和47年11月 市立市川博物館として史跡堀之内貝塚の隣地に開館。
- 50年2月 登録博物館となる。登録第7号。
- 57年11月 市立市川歴史博物館の開館に伴い、館名を市立市川考古博物館に改称。
- 60年3月 常設展展示替えによる新装開館。

### 施設

- 1 施設案内
- |      |                       |
|------|-----------------------|
| 建物構造 | 鉄筋コンクリート造2階建（一部地階）    |
| 敷地面積 | 7,253.00㎡（うち駐車場 990㎡） |
| 建築面積 | 931.80㎡               |
| 延床面積 | 1,513.68㎡             |

#### 〔主な施設〕

ホール展示室	90.9㎡
常設展示室	0387.2㎡
学習室	28.2㎡
収蔵室	346.5㎡

### 2 交通案内

- 北総線「北国分駅」から徒歩10分
- JR総武線「市川駅」・京成線「市川真間駅」から京成バス「北国分駅」行き、「松戸駅（国分経由）」行き、「聖徳学園」行きで、「堀之内3丁目」バス停下車徒歩5分、「博物館入口」バス停下車徒歩10分。

### 収蔵資料

市川市史編さん事業や博物館・教育委員会（一部）による発掘資料と、個人から寄贈された考古資料などを収蔵している。

- 1 先土器（旧石器）時代関係  
今島田遺跡、殿台遺跡、丸山遺跡
- 2 縄文時代関係  
杉ノ木台貝塚、美濃輪台貝塚、上台貝塚、向台貝塚、今島田貝塚、姥山貝塚、曾谷貝塚、堀之内貝塚等
- 3 弥生時代関係  
須和田遺跡、木戸口遺跡、後畑遺跡、国府台遺跡等
- 4 古墳時代関係  
須和田遺跡、鬼高遺跡、杉ノ木台遺跡、法皇塚古墳等
- 5 奈良・平安時代関係  
下総国府跡、下総国分僧寺跡、下総国分尼寺跡、須和田遺跡、国分遺跡等

事業

1 常設展示

過去十数万年間の自然環境の変化を導入とし、最初に住民がやってきてから律令社会が成立・崩壊していくまでの原始・古代の歴史を、市川を中心に展示している。

<展示内容>

○前室 環境の変化

過去十数万年間でも自然環境は大きく変化している。貝、クジラ、サンゴなどの化石や地層模型などにより紹介している。

○第1室 最初の住民<先土器時代>

原人・旧人・新人の胸像模型と、1万年以上も前の寒冷な時代に、狩りなどで暮らしていた人々の石器を展示している。

○第2室 貝塚の形成<縄文時代>

土器を使用した縄文人は、狩猟・漁労・採集で計画的に生活していた。豊富な貝塚の出土資料やジオラマにより当時の生活を復元し、埋葬法、縄文人骨とその特徴などを実物や写真で紹介している。

○第3室 稲作文化の伝来<弥生時代>

朝鮮半島から伝来した稲作等の農耕とその文化が人々の暮らしを大きく変え、市川に普及した様子を展示している。

○第4室 古墳の出現<古墳時代>

大和政権が各地を統一しようとした時代で、市川には6世紀半ばの法皇塚古墳がある。その出土品、当時の土器の土師器と須恵器、鉄やカマドの普及を紹介している。

○第5室 律令の社会<奈良・平安時代>

律令を基にした中央集権国家が成立し、市川には下総国の国府と国分僧・尼寺が置かれた。仏像・瓦・墨書土器・役人の服・伽藍模型や庶民の暮らしを紹介している。

2 展示

ホール小展示「市川出土の縄文土器Ⅱ」

令和4年8月5日～令和5年7月30日

同「市川出土の注目資料」

令和5年8月11日～令和6年7月28日

学校巡回展「土器のあなには何がある？」

令和5年4月26日～7月6日、

8月24日～令和6年1月24日

3 講座・説明会・体験学習・見学会など

行事名		内容	
講座・講演会等	○考古学教室		
	『続日本紀』を読む	全9回	539人
	『日本霊異記』を読む	全4回	221人
	○歴史セミナー 第1期	4回	85人
	○公開講演会	1回	91人
	○姥山貝塚シンポジウム	1回	420人
	○展示解説	39回	1,534人
体験・見学会・養成	○公民館講座	1回	30人
	○外部依頼講座・講演	6件	496人
	○小学校出前授業	19校	1,828人
	○小学校巡回展	9校	5,289人
	○火おこし体験	5回	213人
	○貝塚案内/縄文服体験	5回	54人
	○組紐体験	38回	575人
	○ボランティア研修	62回	のべ222人
	○夏休みスタンプラリー	36日	497人
	○ナイトミュージアム	1回	206人
養成	○土偶づくり	4回	のべ88人
	○市民まつり組紐ほか	1日	のべ437人
	○縄文フェスティバル	1日	585人

4 協力

市川市史編さん事業

5 学生・教員研修

学芸員館務実習5 大学5人、教員研修1人

利用

1 利用案内

- ・開館時間 9時～16時30分
- ・休館日 月曜、月曜が祝日の翌日  
年末年始（12月28日～1月4日）

2 入館料 常設展・企画展は無料

3 利用状況(表1参照)

表1 (令和5年度) 開館日数303日

入館者			外部サービス利用者			合計		
18歳未満	18歳以上	計	18歳未満	18歳以上	計	18歳未満	18歳以上	計
7,290	10,262	17,552	8,899	2,692	11,591	16,189	12,954	29,143

## 6. 市川歴史博物館

〒272-0837 市川市堀之内2-27-1  
TEL 047-373-6351 FAX 047-372-5770



第4室 台地の人々の生活のコーナー

### 特色

原始・古代担当の考古博物館の後を受けて、市川における中世以降の歴史の流れを概観し、海・川・台地という地形を活かしたかつての市域の生活・生業を復元展示している。

本市の歴史民俗資料の滅失・散逸を防ぐため、これらを収集・保管・展示及び調査研究をして保護活用を図り、市民の郷土に対する認識と愛情が深まるよう努めている。

### 沿革

昭和 57 年 11 月 市立市川歴史博物館として開館。  
12 月 登録博物館となる登録 17 号。

### 施設

#### 1 施設案内

建物構造 鉄筋コンクリート造2階建(塔屋付)  
敷地面積 3,388.04 m<sup>2</sup> 建築面積 1,199.16 m<sup>2</sup>  
延床面積 2,001.57 m<sup>2</sup>

〔主な施設〕

常設展示室 430 m<sup>2</sup> 特別展示室 249 m<sup>2</sup>  
講堂 104 m<sup>2</sup> 収蔵室 234 m<sup>2</sup>

#### 2 交通案内

- 北総線「北国分駅」から徒歩8分
  - JR総武線「市川駅」から京成バス「北国分駅」行き、「松戸駅(国分経由)」行き・「聖徳学園」行きで、「博物館入口」バス下車徒歩10分、ほか。
- 案内図は、2ページ前の「考古博物館をご参照ください。

### 収蔵資料

市川市史編さん事業や博物館・教育委員会（一部）による収集資料と、個人から寄贈された歴史・民俗資料を収蔵している。

- 1 中世（鎌倉～戦国時代）関係  
板碑、日蓮関係資料（複製）等
- 2 近世（江戸時代）関係  
高札、古文書、製塩用具等
- 3 近現代（明治～昭和時代）関係  
古写真、戦争関係資料、学校関係資料等
- 4 民俗関係  
生活用具、農具、漁具、職人関係資料等

### 事業

#### 1 常設展示

##### ○前室

当館設置の趣旨及び、案内図を配して展示し、室内の配置と順路を示す。また、市内の特徴のある写真や鳥瞰図を展示し、景観的イメージを印象づけて展示室へ導入するとともに、新着収蔵資料等を紹介する。

##### ○第1室 中世以降の市川

中世以降の市川の歴史の主要事項を理解してもらい、各ルームの年代的位置づけを行う場として、パネルと資料で紹介する。  
展示資料：立正安国論（複製）、空襲日誌等

##### ○第2室 海辺の人々の生活

かつては交通の要所で、関東地方最大の塩の生産地でもあり、近代以降は海苔の養殖が盛んであった、市南部の行徳、南行徳の地域は、住宅地として急激な変貌を遂げている。ここでは、海辺の人々の生活を再現し、現在との関わりについて考える場とする。  
展示資料：製塩用具、のり抄き用具等

##### ○第3室 水路と陸路

市川市の西側を流れる江戸川は、水路として交通や物資の運搬に重要な役割を果たしてきた。

第4章 教育機関

一方、市内の陸路は、参勤交代や成田参詣への道などがあり、これらが江戸川と交わるところに、市川関所と行徳新河岸があった。

ここでは、江戸時代を中心に示し、床面には市域の水路と陸路の概略を紹介する。

展示資料：往来手形（複製）、笹屋看板等

○第4室 台地の人々の生活

市の北部地域は下総台地の一画で、小さな谷津が入り込んだ地形をなしており、人々は谷津の泥深い田を耕して生活してきた。ここでは、民家の一部を移築復元して、土間を中心とした生活を再現し、さらに農耕と年中行事を組み合わせる事により、一年を周期とする生活を紹介します。

展示資料：稲作用具、辻切大蛇等

○第5室 郷土コーナー

郷土市川に関係した人物を「人で綴る市川の歴史」と題してまとめ紹介する。また市内の史跡や文化財についても紹介し、新着資料や季節の民俗資料を展示する。

展示資料：坪井玄道関係資料

2 展示

学校連携学習資料展

「発見・体験・昔の暮らし」

令和5年11月3日～令和6年2月4日

実習展

「市川ゆかりの大相撲」

令和5年9月16日～12月27日

季節の展示 春、夏、秋、冬

通年

開館40周年記念企画展

「みなさまと歩んだ博物館」

令和5年7月22日～9月10日

3 講座・説明会・体験学習など

行事名		内容	
講座・講演会	○古文書講座	3回	46人
	○歴史セミナー	4回	84人
	○ヒストリーツアー	20回	251人
体験・養成	○小学校体験学習	昔の暮らし体験 ・来館型：20回 2,076人 ・出前型：1回 23人	
	○昔遊び体験	45回	386人
	○縄文フェスタ	1回	585人
	○夏休み体験講座	2回	25人
	○ナイトミュージアム	1回	206人
	○ボランティア講習会	10回	60人

4 協力

市川市史編さん事業

5 研修

学芸員館務実習 5 大学 5 人

利 用

1 利用案内

・開館時間 9時～16時30分

・休館日 月曜、月曜が祝日の翌日  
年末年始（12月28日～1月4日）

2 入館料

・常設展・企画展は無料。

3 利用状況（表1参照）

表1（令和5年度）開館日数 303日

入館者			外部サービス利用者			合計		
18歳未満	18歳以上	計	18歳未満	18歳以上	計	18歳未満	18歳以上	総計
7,009	14,487	21,496	22	128	150	7,031	14,615	21,646

## 7. 市川自然博物館

〒272-0801 市川市大町284  
TEL 047-339-0477 FAX 047-339-1210



### 特色

市川市は、北部の台地と南部の低地、江戸川と東京湾などの自然環境に恵まれているが、現在は著しく都市化が進んでいる。市川の自然は都市化の中でかろうじて残されてきた自然と、市街地の自然によって特徴づけられる。

市川自然博物館では、こうした「市川の自然」を対象として、地域の自然環境や動植物について記録し後世に伝えるとともに、身近な自然環境や動植物とのつきあいかたを広く市民に伝え、市川市の自然を再発見することを博物館の使命としている。

一般に博物館には、資料収集や保存、調査や研究、教育普及や展示等さまざまな機能がある。当館では、資料収集や調査、研究等により得られた成果を生かした教育普及及び展示活動に主眼をおいている。

### 沿革

- 平成元年10月24日 開館
- 開館記念特別展「市川の植物」
- 平成2年度 企画展「大町自然観察園の自然」
- 平成3年1月10日 千葉県博物館原簿に登録
- 平成3年度 企画展「市川の鳥」
- 平成4年度 企画展「江戸川放水路の自然」
- 平成6年度 企画展「市川のさかな」
- 平成9年度 企画展「柏井雑木林の自然」
- 平成12年度 企画展「市川市内の絶滅危惧種」
- 平成15年度 企画展「長田谷津（大町自然観察園）」
- 平成18年度 企画展「いちかわの動植物 基本ブック」
- 平成21年度 企画展「長田谷津（大町公園自然観察園）いきもの暦」
- 平成24年度 企画展「いきものの成長」

- 平成27年度 企画展「いきものの体」
- 平成30年度 企画展「動物のなかまわけ」及び「堀之内地区一帯の土地利用の変遷とかつての自然景観」
- 令和3年度 企画展「長田谷津、江戸川放水路」

### 施設

#### 1 施設案内

建物構造 鉄筋コンクリート造  
地下1階、地上2階、塔屋付

敷地面積 2,994.0㎡  
建築面積 952.8㎡  
延床面積 2,052.3㎡

#### [主な施設]

常設展示室 459.2㎡  
特別展示室 111.0㎡  
収蔵庫 149.2㎡

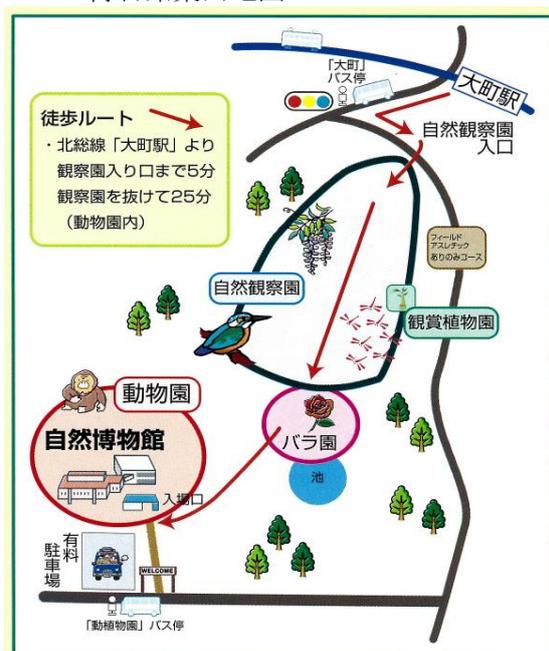
#### 2 交通案内

JR総武線本八幡駅北口またはJR武蔵野線市川大野駅より、動植物園行き京成バスにて終点下車（土日休日のみ運行）、大町駅行き「駒形」下車徒歩10分（毎日運行）。

北総線大町駅より、本八幡行き京成バス「駒形」下車徒歩10分。

北総線松飛台駅よりコミュニティバス「動植物園」下車徒歩1分。

#### 3 博物館案内地図



収蔵資料

市川市内の自然環境、動植物を主な対象として資料収集し、収蔵している。

種目	品目
標本資料	植物 さく葉標本
	植物 藻類さく葉標本
	鳥類 剥製標本
	鳥類 骨格標本
	鳥類 古巣標本
	鳥類 卵標本
	鳥類 付随標本
	哺乳類 剥製標本
	哺乳類 骨格標本
	哺乳類 付随標本
	魚類 液浸標本
	昆虫 乾燥標本
	昆虫 古巣標本
	昆虫 付随標本
	貝類 貝殻標本
	貝類 液浸標本
	甲殻類 乾燥標本
	甲殻類 付随標本
	地学 遺骸・化石標本
	地学 土壌標本
	地学 岩石鉱物標本
	その他 人工物など
映像資料	写真 デジタル画像
	写真 35 <sup>mm</sup> ポジ原版
	写真 6×7 <sup>cm</sup> ポジ原版
	写真 35 <sup>mm</sup> ネガ原版
	写真 プリント
映画 35 <sup>mm</sup>	

常設展示

「市川の自然」をメインテーマとして、次の4つの大きなテーマで博物館資料を展示する。  
また、実際にさまざまな生き物を飼育し展示するコーナーで展示を構成している。

- 第1テーマ「市川のおいたち」  
市川の大地のなりたちと人間の影響による自然の変化について紹介している。  
・ひろがる市街地 ・市川の大地
- 第2テーマ「残された市川の自然」  
都市化が進むなかで、残された林や干潟の自然について紹介している。  
・市川の林 ・市川の海辺
- 第3テーマ「都市化した市川の自然」  
都市化が進み、おおぜいの人々がくらす市街地でいきいきと生活する身近な生き物について紹介している。  
・帰化植物 ・都市鳥 ・身近な昆虫

- 第4テーマ「湧水の自然」  
台地と低地からなる市川の地形によって生み出され、かつては市川のいたるところにあった湧水の自然について紹介している。  
・湧水のある大町自然観察園
- 飼育コーナー  
身近な生き物など、年間を通じて種類を入れ替えて飼育し展示している。

教育普及活動

博物館外での活動として、隣接する大町公園自然観察園（長田谷津）や市内各地での自然体験学習を主催するほか、学校や市民団体などの自然体験学習を積極的に支援している。

行事名	内容
長田谷津散策会	自然観察園（長田谷津）の四季折々を楽しむ 令和5年度 10回 199人
長田谷津環境整備	自然観察園で学芸員と共に環境整備作業を行うボランティア活動 令和5年度 8回 56人
学校や市民団体等への学芸員派遣	要請により学芸員を派遣する外部支援活動 令和5年度 54件2,998人
自然博物館へ来館し ての講師派遣	自然観察園：博物館を利用した自然体験学習の支援 令和5年度 12校1,065人
教員の研修受入れ	小中学校教員の研修支援 令和5年度 1回6人

利用

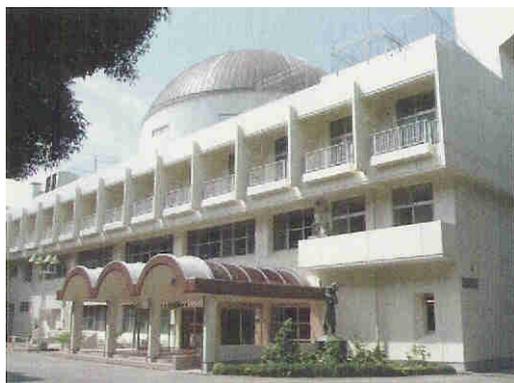
- 開館時間 午前9時30分～午後4時30分（入館は4時まで）
- 休館日 毎週月曜日（ただし月曜日が休日の場合は翌日）及び年末年始
- 入館料 無料

・利用状況（令和5年度） 開館日数 305日

	18歳未満	18歳以上	計
入館者	47,858	68,986	116,844
外部サービス利用者	3,499	819	4,318
合計	51,357	69,805	121,162

## 8. 市川市少年自然の家

〒272-0801 市川市大町 280-4  
TEL 047-337-0533 FAX 047-337-0534



### 特色

市川市少年自然の家は、大町レクリエーションゾーン内にあり、動物園・観賞植物園・バラ園・自然観察園・自然博物館に隣接した、自然豊かな地域に立地している。

設立主旨：児童・生徒を自然に親しませ、自然の中での集団宿泊生活や野外活動を通じて、情操や社会性を豊かにするとともに、心身を鍛練し健全な児童・生徒の育成を図る。

設備：宿泊室・食堂・体育室・研修室（3室）・視聴覚室・プラネタリウム室・集いの広場（キャンプファイヤー場、野外炊事場、トイレ）

### 沿革

昭和 57 年 7 月	開所
8 月	プラネタリウム一般公開開始
昭和 62 年	5 周年記念式典
昭和 63 年	野外活動倉庫建設
平成 5 年	10 周年フェスティバル実施
18 年 9 月	改修工事開始
19 年 7 月	リニューアルオープン
23 年 4 月	祝日開所開始

### 施設

#### 1 施設案内

敷地面積	10,513.00 m <sup>2</sup>
延床面積	3,730.79 m <sup>2</sup> (建築面積 1,209 m <sup>2</sup> )
建築様式	鉄筋コンクリート造 4 階建て

#### 建物内訳

・宿泊室			
児童・生徒用	18 室	定員 180 人	
家族用	5 室	定員 20 人	
引率者用	2 室	定員 10 人	
・研修室			
第 1 研修室	1 室	定員 80 人	
第 2 研修室	1 室	定員 50 人	
和室研修室	1 室	定員 40 人	
・視聴覚室			
	1 室	定員 50 人	
・プラネタリウム室			
	1 室	定員 217 人	
・体育室			
	縦 28m	横 14m	
・食堂			
	1 室	最大 136 席	
・その他			
	浴室、事務室、保健室他		
付帯設備	集いの広場 2,475 m <sup>2</sup> 野外炊事場		

#### 2 交通案内

- ・北総線松飛台駅 徒歩 20 分
- ・JR 武蔵野線市川大野駅 徒歩 40 分  
または、市川大野駅から京成バス「大町駅行」乗車、「大町公民館」下車 徒歩 7 分・・・乗車時間 約 10 分
- ・JR 総武線本八幡駅北口から京成バス「大町駅行」乗車、「大町公民館」下車 徒歩 7 分・・・乗車時間 約 35 分

#### 3 近隣地図



#### 利用

- 1 利用できる人
  - ・少年及び少年を主たる構成員とする団体並びにこれらの引率者

- ・社会教育に係る学習、文化活動その他の生涯学習の諸活動を行うもので、教育委員会が認めるもの

★利用状況（令和5年度利用者）

令和5年度は、新型コロナウイルス感染症が5類になったことをうけ、6月1日から事業を再開した。

開所日数 257日

2 宿泊利用に関わる経費

(令和6年4月1日現在)

- ・宿泊施設使用料（税込）

市内の方	中学生以下	無料
	高校生以上	550円
市外の方	高校生以下	2,470円
	大学生以上	3,300円

- ・シーツ、枕カバー洗濯代（税込）

1人 243円

- ・食事代（税込）

朝食・昼食 540円～650円

夕食 840円～900円

◎プラネタリウム投影

毎週土・日・祝日（12月29日～1月3日の休所日を除く）午後1:30より

（7・8月は毎週日曜日・祝日）

25名以上の団体は、予約により受付

※投影時間は、約1時間

- ・プラネタリウム見学科（税込）

	個人	団体
市内の方	160円	130円
市外の方	330円	260円

◎休所日

月曜日（祝日の場合はその後の平日）

年末・年始（12月29日～1月3日）

★主催・共催事業（令和6年度計画）

月	事業名
4	
5	
6	
7	チャレンジャー・スクール①、ザ・チャレンジ！自由研究、チャレンジャー・スクール②
8	
9	親子お月見の会
10	親子宿泊体験
11	チャレンジャー・スクール③
12	プラネタリウムコンサート
1	チャレンジャー・スクール④、親子冬の天体観望会①
2	親子冬の天体観望会②、親子で火を囲もう
3	竹細工工房、チャレンジャー・スクール⑤

区分		団体数	人数		
宿泊利用	市内	幼小中高・特別支援学校	4	58	
		青少年団体	5	335	
		その他	13	522	
	市外	学校・青少年団体他	12	389	
小計 A		34	1,304		
プラネタリウム見学	有料	公開日	市内	0	407
			市外	0	482
		団体	市内	0	0
			市外	0	0
	無料	小中高・特別支援学校他	7	938	
		その他（減免団体）	0	0	
		宿泊団体 D	6	210	
	小計 B		13	2,037	
日帰り利用	プラネタリウム見学なし C		34	1,951	
	プラネタリウム見学あり		7	938	
	小計		41	2,889	
合計 (A+B+C-D)		75	5,082		